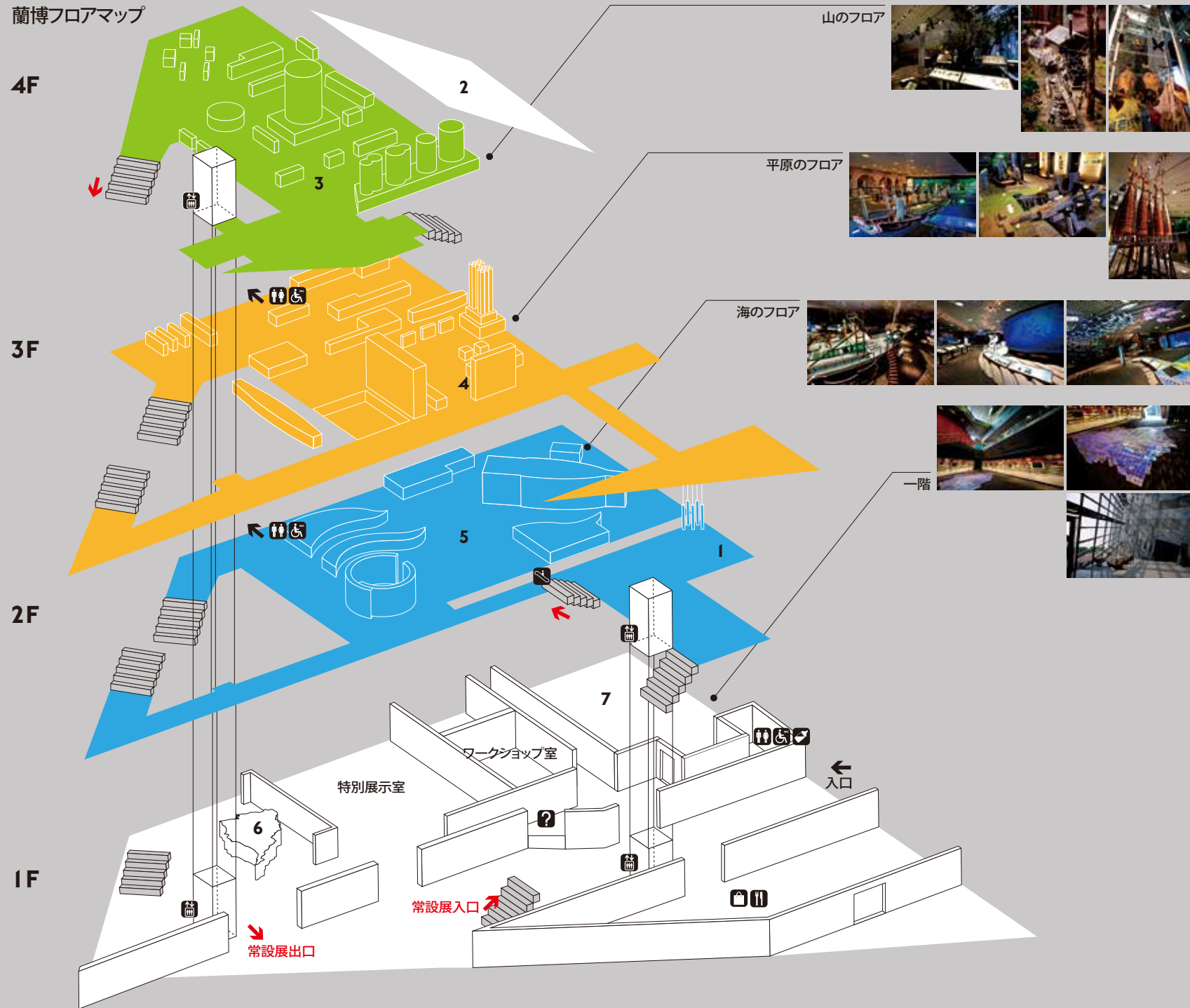


## 宜蘭という名の“博物館”

宜蘭は古くは「噶瑪蘭（クバラン）」と呼ばれていました。この名は先祖代々この土地に暮らす「噶瑪蘭族（クバラン族）」に由来しています。18世紀末、漢人が蘭陽平野の開拓に踏み出し、その最初の拠点として建設された「頭城」は、清朝時代の噶瑪蘭地区における人口および商業発展の目覚ましい街となりました。1812年、現在からさかのぼること200年余りに宜蘭地区は「噶瑪蘭庁」と定められました（「庁」は清朝時代の行政単位）。



## 蘭陽博物館——大地と共生する建築

蘭陽博物館の建築デザインは、宜蘭の大自然からヒントを得ています。建築デザイナー姚仁喜氏は台湾東部のケスタ地形に着目し、外壁はヴィジュアルディ作曲「四季」の主旋律を元に、蘭陽平野に広がる田畑の変化に富んだ姿を表しています。2010年開幕以来、同年に「遠東建築賞」、「台湾建築賞」最優秀賞、2012年に「国際建築賞」等数多くの建築賞を受賞し、2011年「国際宜居城市大会」では人工環境分野にて金賞の栄誉に輝きました。

## 宜蘭のショーウィンドウ——豊富で多様な展示スタイル

蘭陽博物館では、宜蘭の特色ある文化と生態に焦点を当て展示を行っています。常設展は宜蘭特有の地理環境—山、平原、海をテーマに構成され、環境とのインタラクティブ体験をお楽しみいただけます。毎年2-3回開催される特別展では、テーマに応じた詳細にわたる展示を行っています。常設展は、当館の特徴を生かした4つのフロアで構成され、展示スペースは7つのプログラムに分かれています。

- 1 [プロローグ]: 展示スペースにて宜蘭誕生の物語をご紹介します。
- 2 [大プロジェクトショー—奇跡を仰ぐ]: 3フロア分の吹き抜け天井を利用し、全長19メートルの巨大投影スペースを設け、一粒の水滴を主人公に蘭陽大地における循環過程を描きます。「山、平原、海」各フロアの展示内容とも関連しています。
- 3 [山のフロア]: 芸術的手法を用いて、森林にいるかのような疑似体験を可能にした空間です。中央山脈と雪山山脈が太平洋から吹く季節風と水蒸気を迎え、山の緑と生態系を豊かにし、「霧深い森」を作り上げています。
- 4 [平原のフロア]: 縦横無尽に並ぶ水田、石垣の連なる棚田、翡翠色に芽吹く稲、金色に染まる稲穂。このエリアでは宜蘭平野の最も特色ある風景を再現しました。水は宜蘭平野の生活様式を作り出す生命線であり、知恵に満ちた農家、先住民族の生活を特徴的なものにしていきます。
- 5 [海の花]: 砂丘プースでは「沙崙仔」（河川と海の合流地点で砂州がうねる現象）を再現しています。飛魚と水鳥の造形が、生態資源と人文活動のつながりを表現しています。
- 6 [時の回廊]: 写真と映像作品にて、宜蘭の歴史と物語をお伝えします。
- 7 [こども探索エリア]: 子供達を海の宝探しへとご案内します。



## 蘭陽博物館——宜蘭を知るための玄関口

蘭陽博物館は宜蘭県・頭城鎮（「鎮」は台湾の行政単位）、清朝時代の烏石港跡地に位置しています。台湾では初となる地方自治体による提案で、18年という長きにわたる建設期間を経て2010年に完成した博物館——蘭陽博物館は、宜蘭の伝統を今に受け継ぐシンボルとして、また、新たな文化の発信源として幕を開けました。

1990年代、宜蘭県政府は「生態博物館」というコンセプトを打ち出し、宜蘭県全体を一つの博物館に見立てて、蘭陽博物館を「宜蘭を知るための玄関口」として位置づけました。この考え方には、宜蘭の自然や文化の保存・保護活動を通して、変化に富んだ教育の場を作り上げたいという願いが込められています。2001年には台湾初の自発的に結成された民間団体、「宜蘭博物館家族協会」が創設され、これまでに約60の博物館が参加。蘭陽平野で数珠つなぎにつながりあい、「宜蘭」という名の“博物館”を形成する重要な基礎となっています。私たちは、蘭陽博物館の展示ウィンドウや拡大しつづける関連博物館のネットワークを通して、この土地を訪れる皆様が宜蘭に息づく文化や自然の美を体感し、また、宜蘭というこの“博物館”が永きにわたって発展し、ますます繁栄していくことを期待しています。



日本語

www.lym.gov.tw

## 宜蘭の文化——先史時代の文化遺跡、頭城搶孤、歌仔戲と時節の祝い

1980年以降、宜蘭県政府文化局は発掘を主とした四大遺跡についての考古学的活動を行っており、その過程で出土した140万点におよぶ先史時代の文化財すべてを、ここ蘭陽博物館にて収蔵しております。その他、7,000点を超える台湾のかつての陶磁器作品や各種民俗版画等の文化財も収蔵しております。また、「頭城鎮・搶孤」は台湾最大規模の「搶孤」行事として知られており、農曆7月最終日の真夜中に行われます。宗教民俗と身体能力の競技という2つの側面を持つこのイベントは、台湾における時節を祝う民俗的活動として、現在では世界にも広く知られるようになりました。

さらに、宜蘭は「歌仔戲」発祥の地でもあります。20世紀初頭、歌仔戲は宜蘭・員山郷にて誕生しました。「落地掃」と呼ばれる演劇から発展したもので、唯一の台湾発祥の演劇として確立しています。1992年、宜蘭では全国に先立って初の公立歌仔戲団「蘭陽戲劇団」が結成され、台湾独自の特色を持つ伝統的文化資産としてその名を広めていくこととなりました。

宜蘭では四季をテーマとしたイベントも新しいアイデアの下、益々の盛り上がりを見せています。冬に開催される「歡樂宜蘭年」では全国で唯一、旧暦12月最終日の夜（除夕夜）に市民たちが集って共に食事をする機会を設けており、春の「綠色博覧会」では環境保護と省エネルギーを提唱しています。1996年に初めて開催された夏の「宜蘭國際童玩藝術祭」はユネスコの「国際民族芸能組織委員会（CIOFF）」の指標に基づいています。また秋には、文化と保養に重点を置いた「礁溪温泉祭」、高齢者のためのイベント「宜蘭不老祭」を開催し、観光と生活とのつながりをアピールすることを目的とした活動を行っています。



左上より右へ  
彩繪公雞紋盤  
幾何紋陶罐—  
淇武廟遺跡出土品  
頭城搶孤  
棲蘭山ヒノキ林  
龜山島

左下より右の順  
民俗版画—七娘媽  
陳旺樓氏—  
民俗藝術薪傳獎受賞者  
養鴨農家

## アクセスマップ



公共交通機関でお越しのお客様  
電車：東部幹線電車にて頭城駅で下車。下車後烏石港方向へ歩いて20分、または宜蘭県内バスに乗り換え、蘭陽博物館または烏石港にて下車後すぐ。  
バス：1.国道5号線首都客運または噶瑪蘭客運にて礁溪で下車。宜蘭県内バスに乗り換え、蘭陽博物館または烏石港で下車後すぐ。2.国道5号線國光客運にて蘭陽博物館または烏石港で下車後すぐ。

アクセス  
お車で越しのお客様  
路線1：台2線134.5キロメートル地点を過ぎてすぐ。  
路線2：国道5号線にて雪山トンネルを通過後、頭城インターチェンジで下り、頭城烏石港方向へ走行。台2線134.5キロメートル地点を過ぎてすぐ。

開館時間  
毎週木曜日から火曜日：9:00～17:00(入場券販売は16:30まで)  
休館日：毎週水曜日(祝祭日に当たる場合は開館)  
旧暦12月最終日(除夕)と旧暦1月1日(大年初一)  
別途当館の定める休館の必要な日

入館料  
大人 100元……………一般の見学者  
団体 80元……………20人以上の大人団体のお客様  
学生 50元……………6～12歳の児童・生徒(学生証をご提示ください)  
優待 30元……………20人以上の学生団体(学生証をご提示ください)  
無料……………身長115cm以下のお客様または6歳未満のお子様  
65歳以上のお客様(身分証をご提示ください)  
お身体が不自由なお客様(付き添いの方1名様まで無料です)

蘭陽博物館  
26144 宜蘭縣頭城鎮青雲路三段750號  
TEL 03-977-9700 Fax 03-977-9300 MAIL lymuseum@mail.e-land.gov.tw

## 宜蘭の生態系——恵まれた自然資源と台湾におけるホエールウォッチングの重要スポット

宜蘭は台湾東北部に位置し、三方を山に囲まれながらも、一方を海に面しているという非常に特殊な地形を有しており、その自然環境は大変に恵まれたものとなっています。棲蘭山のヒノキ林は高い峰、深い谷に囲まれた場所がありますが、年間を通して雨と霧に満ちた地区であることから、多様な生態系を形成していることで知られており、台湾における世界遺産登録の可能性を秘めた場所の一つに挙げられています。豊富な水資源は礁溪に途絶えることの無い豊かな温泉資源を生み出し、蘇澳には世界的にも有名となっている冷泉の美しい景観を形成しています。さらに、宜蘭の海岸線はおおよそ101キロメートルに達しており、その多種多様な海洋環境はサンゴの生育にとって最適な空間を生み出しています。また蘭陽溪の河口は毎年冬が訪れると重要なウナギの漁場となることでも有名です。龜山島周辺の海底温泉付近は世界でも非常に珍しいカニの一種、「烏龜怪方蟹」の生息地となっており、さらに付近の海域は台湾におけるホエールウォッチング、イルカウォッチングの重要スポットとしても知られています。



蘭陽博物館  
LANYANG MUSEUM